

平成 12 年 3 月期 決算見通し及び連結決算見通しについて

当社の第 147 期 (平成 12 年 3 月期) 決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

当期のわが国経済は、政府の経済対策の効果にもかかわらず、個人消費の低迷と民間設備投資の落ち込みにより、全体としては依然厳しい状況が続いております。

一方、海外についても、東南アジア経済の回復による需要の増加があるものの、世界的な競争激化の流れの中で、引き続き厳しい環境下にあります。

このような状況の下、当社は中期経営計画「KOBELCO-21」に全社をあげて取り組むとともに、収益の確保に最大限の努力を払ってまいりました。

当期の売上高は、機械・電子情報部門が減収となるものの、鉄鋼・溶接部門及びアルミ・銅部門がやや増収となることから、前回見通し並みの 8,400 億円程度となる見込みであります。

また、経常損益につきましても、前回見通し並みの 90 億円程度の利益を予想しております。

税引後の当期損益につきましては、低価法に基づく上場有価証券の評価損や特別退職金等の特別損失が増加することから、前回見通しに対して 50 億円程度悪化し、160 億円程度の損失となる見込みであります。

なお、当期の配当につきましては無配とさせていただきますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

一方、連結決算につきましては、売上高は前回予想並みの 1 兆 3,100 億円程度を見込んでおりますが、経常損益は、半導体関連事業の業績が改善することから前回見通しより 60 億円程度改善し、130 億円の利益を確保する見通しであります。

しかしながら、単独決算での特別損失の増加に加えて、前期において計上した半導体関連事業に係る税効果調整額の取り崩しにより、当期損益は前回見通しより 210 億円程度悪化し、480 億円程度の損失を計上する見込みであります。

当社といたしましては、引き続き、資本効率の向上に向けて事業の選択と集中を迅速かつ積極的に推し進め、戦略的・構造的な企業改革を果敢に実行し、21 世紀に向けての揺るぎない経営基盤を構築してまいり所存でございます。

[単独決算]

(億円)

	売 上 高	経 常 損 益	当 期 損 益
今回見通し	8,400	90	160
前回見通し	8,400	90	110
前期実績	9,384	98	233

[連結決算]

(億円)

	売 上 高	経 常 損 益	当 期 損 益
今回見通し	13,100	130	480
前回見通し	13,100	70	270
前期実績	13,054	226	388